

市民の笑顔をおとどけます

5/13

市内の美しい花々



1. 神明神社のツツジとフジ
2. 織部の里公園のアヤメとヒトツバタゴ



新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言で、人影もなくなった市内の花の名所でしたが、花々は例年のように美しく咲いていました。

土岐津町の神明神社では、藤棚に白色のフジが美しく垂れさがり、ピンク色のツツジもきれいに花をつけていました。

泉町の織部の里公園では、元屋敷窯跡の横でヒトツバタゴが満開の様子を迎えています。窯跡の眼下には、アヤメが美しい紫色の花を咲かせていました。



4/26

コロナが早く終息しますように

肥田瀧が洞石仏保存会が、江戸時代に作られたとされる観音像などの石仏にマスクを着け、新型コロナウイルス感染症拡大の早期終息を祈願しました。

マスクが着けられた石仏は全部で4体。それぞれの大きさに合わせて、赤色の布で手作りされたマスクがロープで石仏にくくり着けられました。最も大きい石仏である高さ



1. 赤いマスクが付けられた磨崖仏に手を合わせて拝む市民
2. 石仏にマスクを着ける柴田さん

2・2mの「磨崖仏」には、縦18cm、横25cmの巨大なマスクが着けられ、通りかかった市民は合掌し、ウイルスの終息に祈りを込めました。

保存会の代表である柴田和人さんは、「早く新型コロナウイルスが終息してほしい。終息してマスクを外すことができる日を心待ちにしている」と語りました。

5/28・6/1

子どもたちへ 思い届く

分散登校での学校再開となった6月1日、市内小中学校で市から子どもたちへ向けた感染予防策や感染者への差別を抑止するメッセージ文を記載したお便りと感染対策物品が、児童生徒に手渡されました。

市は、感染予防と差別抑止を啓発するお便りを作成。小中学校用のマスクと除菌用ウェットティッシュ、幼稚園・保育園・こども園用の紙せつけんと除菌用ウェットティッシュと一緒に配布しました。

約6千個におよぶ物品の梱包を引き受けたのは、市内就労支援事業所。梱包作業の大詰めを迎えた事業所では、「子どもたちがコロナにかからないよう、梱包作業は大変だけどがんばります」と通所者が汗を流していました。

物品とお便りを受け取った児童は、「自分がかからないように予防して、もし誰かがかかってしまっても差別はしないようにしたい。ありがとう」と笑顔を見せました。



1. 市から子どもたちへ向けたお便りを読む児童（6/1）
2. 配布されたお便り
3. 感染症対策物品の梱包を行う就労支援事業所の職員（5/28）

5/21

陶史の森 にぎやかに

春から初夏にかけて、多くの動物達が誕生したり、引越して来たりして、陶史の森がにぎやかになりました。3月、4月とヒツジの子が誕生し、メーメーと甲高い声で鳴きながら元気に走り回っています。まだ母親につきっきりですが、自分でエサを食べています。この時期、ウサギもよく生まれます。丸い目や立てた耳が愛くるしく、きっと子どもたちの人気者になるこ



1. 3、4月に生まれたヒツジ
2. たくさん生まれたウサギ
3. 奥美濃古地鶏

とでしょう。5月中旬には、奥美濃古地鶏11羽が加わりました。

5月21日、新型コロナウイルス感染に十分注意し、対応する中で陶史の森が再開しました。新たに加わったかわいい動物たちにぜひ会いに来てください。来園される時は、マスクの着用、手洗いの励行、密集・密接の回避に十分ご配慮願います。